

[短 報]

標識5年後に再捕獲されたヒメホオヒゲコウモリ

佐藤顕義¹⁾・三宅 隆²⁾・佐々木彰央²⁾・高山壽彦³⁾

Recapture of ringed *Myotis ikonnikovi* after 5 years

Akiyoshi SATOH¹⁾, Takashi MIYAKE²⁾, Akio SASAKI²⁾ and Yoshihiko TAKAYAMA³⁾

はじめに

コウモリ類の生存記録は捕獲標識を行った後、同じ個体を再捕獲することによって確認する方法が知られている(庫本, 1987)。日中のねぐらを主に洞窟やトンネルに依存するコウモリ類は再捕獲が比較的容易であることから生存記録についてはよく研究されており, 例えば国内において, キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* では23年8カ月(庫本・内田, 1995), コキクガシラコウモリ *R. cornutus* では21年7カ月(寺西, 2008a), モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* では19年1カ月(庫本, 1991), ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* では15年以上(庫本・内田, 1995; 寺西, 2008b)などの報告がある。一方で, ねぐらを樹木の樹洞や樹皮下, 枯葉内などに依存する種として, ヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* やコテングコウモリ *Murina ussuriensis* が比較的よく研究されているが(安井ほか, 2002; 福田ほか, 2006; 小柳・辻, 2006; 平川, 2007; 河合・赤坂, 2008など), 落葉や樹木の生育, 倒伏によってねぐら場所の再現

性が低く発見が困難であること, 飛翔個体の再捕獲も極めて困難であることから, 国内において樹木などをねぐらとする種の生存記録は筆者らの知る限り報告されていない。

ヒメホオヒゲコウモリは洞窟やトンネルで発見される例も報告されており(清水, 2007; 佐藤ほか, 2011), 今回, 洞窟やトンネルをねぐらとする種のような生存記録を得ることができたので報告を行う。

調査地および方法

静岡県中部を流れる大井川支流の寸又川沿いにある森林軌道として既設されたトンネル(OB v 013, 35°19' N, 138°09' E)において調査を行った。軌道は舗装され, 許可車両のみが通行可能となっていた。調査は2013年9月7日の日中に徒歩でトンネルに入り, 休眠しているコウモリ類を探索し, 捕虫網を用いて捕獲を行った。捕獲した個体は種の同定および性別の判定を行い, 前腕長と体重の計測を行った。標識された個体を捕獲した際はその番号を記録

-
- ¹⁾ 有限会社アルマス, 〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町 3-5-26
Almas Co., LTD, 3-5-26 Honcho, Iwatsuki-ku, Saitama City, Saitama 339-0057, Japan
- ²⁾ NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク辻事務所, 〒424-0878 静岡県静岡市清水区辻 4-4-7
Network for Shizuoka Prefecture Museum of Natural History, 4-4-7 Tsuji, Shimizu-ku, Shizuoka City, Shizuoka 424-0878, Japan
- ³⁾ 株式会社高山自然環境調査所, 〒424-0205 静岡県静岡市清水区興津本町 816-1
Takayama Natural Environment Research Inc., 816-1 Okitsuoncho, Shimizu-ku, Shizuoka City, Shizuoka 424-0205, Japan

した。

本調査におけるコウモリの和名および学名は、Sano et al. (2009) に従い、種の同定は前田 (2005) の検索表に従った。捕獲は事前に環境省関東地方事務所 (第 1305105 号) および静岡県 (第 25-8-1 号) の許可を受けて行った。入林に際しては静岡森林管理署の許可を得た。

結果および考察

OB v 013 においてヒメホオヒゲコウモリおよびクロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* 1 頭を確認した (表 1)。ヒメホオヒゲコウモリはトンネル中央付近の天井の窪みに 5 頭からなる群隼となっており、そのうち 1 頭に標識が装着されていた。捕獲によって既標識個体の番号は TY1818 と確認することができた。この個体は 2008 年 6 月 2 日に OB v 013 で標識された雄個体であった (佐藤ほか, 2011)。従って、標識から 5 年 3 カ月の生存が確認され、さらに標識時と同じトンネルを 5 年後も使用していたことが判明した。

ヒメホオヒゲコウモリは日中のねぐらを主に樹皮下を利用していることが知られているが (安井ほか, 2002; 福田ほか, 2006; 河合・赤坂, 2008 など)、家屋 (出羽ほか, 2009 など) やトンネル類 (清水, 2007 など) も利用することが報告されている。寸又川沿いの複数のトンネルでもねぐらとしての利用が多数みられていることから (佐藤ほか, 2011)、今後も継続した調査を実施すれば、生存記録の情報収集が困難なヒメホオヒゲコウモリのさらなる生存記録が期待される。また、同時に捕獲されたクロホオヒゲコウモリのトンネル利用はこれまでに愛媛県 (吉行, 1974)、滋賀県 (前田ほか, 2013)、熊本県 (船

越ほか, 2013) の 3 例に過ぎず、極めて貴重な情報が得られた。今後も同様な調査を行いクロホオヒゲコウモリについての生存記録の収集も行う予定である。

引用文献

- 出羽 寛・清水省吾・杉本拓朗・川端雄人・山口 哲・米田匡宏・浜田真央・吉川篤史・関山直也・櫻庭匡晃・佐藤翔太 (2009) ヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* の家屋における出産・保育集団。東洋蝙蝠研究所紀要, 8 号, p. 1-8.
- 福田 大介・上條隆志・安井さち子 (2006) 夏期におけるヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* Ognev の集団ねぐら。哺乳類科学, 46 卷 (2), p. 177-180.
- 船越公威・坂田拓司・河合久仁子・荒井秋晴 (2013) 熊本県におけるクロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* の生存初記録と外部形態・頭骨およびミトコンドリア *Cyt b* 遺伝子の変異について。哺乳類科学, 53 卷 (2), p. 351-357.
- 平川 浩文 (2007) コテングコウモリ (*Murina ussuriensis*) の夏季におけるねぐら利用。東洋蝙蝠研究所紀要, 6 号, p. 1-7.
- 河合久仁子・赤坂卓美 (2008) 北海道十勝平野における *Myotis* ホオヒゲコウモリ属 3 種の日中ねぐら。東洋蝙蝠研究所紀要, 7 号, p. 9-16.
- 小柳恭二・辻 明子 (2006) 熊本県におけるコテングコウモリ *Murina ussuriensis* Ognev 1913 の初記録と冬期ねぐらの特徴と環境条件。東洋蝙蝠研究所紀要, 5 号, p. 23-26.
- 庫本 正 (1987) 秋吉台の洞窟にすむコウモリの寿命。山口生物, 14 号, p. 3-4.
- 庫本 正 (1991) 秋吉台産コウモリ類の生態的寿命に関する追加報告 II。山口生物, 18 号, p. 16-17.
- 庫本 正・内田照章 (1995) 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査 VI, 1987 年 4 月から 1993 年 3 月までの調査結果。秋吉台科学博物館報告, 30 号, p. 37-49.
- 前田喜四雄 (2005) 日本産翼手目 (コウモリ目) 検索表。自然環境研究センター編: 日本の哺乳類改訂版, 東海大学出版会, 秦野, p. 159-162.
- 前田喜四雄・岡崎理史・橋本 肇・徐 華・奥村一

表 1 OB v 013 で捕獲されたコウモリ

種 名	体 量 (g)	性	前腕長 (mm)	備考
ヒメホオヒゲコウモリ	4.8	♀	33.5	
ヒメホオヒゲコウモリ	4.4	♂	-	
ヒメホオヒゲコウモリ	4.2	♂	34.5	
ヒメホオヒゲコウモリ	4.8	♂	33.0	
ヒメホオヒゲコウモリ	-	-	-	TY1818
クロホオヒゲコウモリ	3.1	♂	32.0	

注) -: 未計測

- 枝・寺西敏夫・西井一浩 (2013) 滋賀県におけるクロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* の初記録. 東洋蝙蝠研究所紀要, 9号, p. 27-29.
- Sano, A., K. Kawai, D. Fukui and K. Maeda (2009) Chiroptera. In Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa and T. Saitoh eds.: The Wild Mammals of Japan. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto, p. 51-126.
- 佐藤顕義・勝田節子・山本輝正 (2011) 南アルプス地域におけるヒメホオヒゲコウモリの分布とねぐら利用. 森林野生動物研究会誌, 36号, p. 1-7.
- 清水善吉 (2007) 三重県におけるヒメホオヒゲコウモリの初記録. 三重自然誌, 11号, p. 127-128.
- 寺西敏夫 (2008a) 大通洞のコキクガシラコウモリ (*Rhinolophus cornutus*) 生存記録と移動記録. マンモ・ス特別号, 10号, p. 9-14.
- 寺西敏夫 (2008b) 篠立の風穴とコウモリ. 第二次篠立の風穴自然科学調査会編: 第二次篠立の風穴自然科学調査報告書, 第二次篠立の風穴調査会, 三重, p. 45-62.
- 安井さち子・上條隆志・三笠暁子・繁田真由美・長岡浩子・水野昌彦・山口喜盛・小柳恭二・辻明子・齊藤久・齊藤理 (2002) 栃木県日光市におけるヒメホオヒゲコウモリの夏期のねぐら (日中の休息場所 day roost) について. 東洋蝙蝠研究所紀要, 2号, p. 1-7.
- 吉行瑞子 (1974) 四国で初めて採集されたクロホオヒゲコウモリ *Myotis pruinus* YOSHIYUKI, 1971 について. Japan caving, 1巻 (1), p. 43-45.